



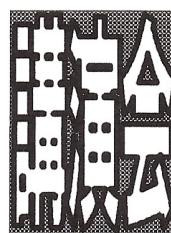
中丹高次脳機能障害者と家族の会

“さくらの会”便り

—リラックスできて、はげまし合うところ、勇気を与えるところ—

No107 2017.6.22

発行責任者
会長 田中 明
編集責任者
事務局長 上原 栄
TEL.0773-22-7859



グループ訓練後のあり方は 拠点つくりに一石

6月11日、ふくちやま市民交流プラザで、北部地域における高次脳機能障害者への支援体制の土台作りを目的として講演会を開きました。対象は、グループ訓練後のフォローアップと医療関係スタッフ等。

午前は、「高次脳機能障害の方に対するセラピストの役割と連携について」と題し、本多伸行先生の講演があり、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士のセラピストの他医療関係、福祉関係の20名（さくらの会2名含む）の参加がありました。

午後からは、グループ訓練参加者の当事者と家族(9名)が参加し、「病院退院後の高次脳機能障害の方を知ろう！」と題し、シンポジウムが開かれました。

座長の本多先生のリードで、3組の当事者・家族がパネルディスカッションをしました。入院の経緯やリハビリ、退院してからの状況や困ったこと、医療や福祉関係に対する要望について発言がありました。

また、3班に分かれグループワークを行

い、自己紹介のあと当事者・家族への質問や思いなどを共有しました。各グループからの討議内容の報告の後、本多先生のまとめ終わりました。

閉会後本多先生を囲んでの交流会には13名が参加、当事者・家族の思いや要望などがだされ、中身の濃い、素晴らしい交流会となりました。

感想 18名も参加 心に深く残った講演会

セラピストの方々に呼びかけて、どれくらい集まって頂けるか心配でした。

18名の方が参加して頂き本当にうれしかった。

パネラーである当事者家族の切実な叫びが、参加者の心に深く刻み込まれたと思います。

今回の講演会が、北部地域の高次脳機能

障害者の拠点
づくりに一石
を投じたので
はないかと思
いました
(さくらの会
世話役)



高次脳機能障害アンケートからの意見

当事者本人の苦しみ・悩みが聞けたことが非常に良かった。

慢性期において、グループ訓練は必要であることを感じた。

就労支援について学びたい。

生の当事者家族の声を聴かせていただいた。自分たちの力不足を感じた。

カラオケ大会報告。。。時間がとても短く感じた

5月28日（日）午後「まねきねこ」で13名の参加で開きました。

和気あいあいと楽しいひと時を過ごし、3時間がとても短く感じました。

次回は、

7月30日（日）

13時30分～

場所は、今回と同じ
綾部市高津町「まねきねこ」



お詫びと訂正

カラオケ部長小室勝幸さんの電話は、

0773-49-0054 です。

総会時に渡していた連絡表の電話番号は間違っていました。皆さんに、ご迷惑をおかけし申し訳ありません。

今まで参加されたことがない方も、是非顔を出して下さい。

【編集後記】

高次脳機能障害者ハビリテーション学習・交流会

＜日時＞

平成29年7月9日（日）
13時～16時
(受付12時30分～)

＜場所＞

：ハピネスふくちやま
会議室1

＜講演＞13時～14時40分
「高次脳機能障害者についてのグループ訓練を通して」
講師：本多 伸行氏

＜交流会＞15時～16時
経験や思いを交流しましょう。
本多先生にもご参加いただきます

本多先生の講演

主催：福知山市・さくらの会